

藤原姓 高現米八拾石
市川 家紋 黒餅之内違鷹羽丸ニ錢裏形

武田信玄^ニ仕罷在候市川豊前守
某惣領

(冒頭に貼紙あり)
家譜藤原氏とのみいいて先祖之出所をいはず先祖市川豊前守武田信玄に仕へ其男縫殿助本家武田信玄同四郎勝頼より知行配分有之甲州^ニ住居仕候得共續^并分知高共相知す天正十年本家武田勝頼其外一族滅亡^ニ付流浪其後
権現様御入国之砌本多佐渡守承^ニ御奉公奉願候処間も無く病死其子内記某も数年御奉公願罷在候処其節浅野但馬守松平陸奥守奥平美作守三人^ノ扶助を請其子庄右衛門も事跡上^ニ同してその子佳當与力に召くはへらる如何なる事にて浅野松平等に扶助せられしかまた市川豊後守といふものも定かならず殊^ニ藤原氏といへは武田に支流^ニあらずかたかた不審なりよりてこれらのことは記さず

某

縫殿助

本家武田信玄^ノ知行配分有之

甲州^ニ住居罷在候得共勝頼滅亡

^ニ付流浪仕

権現様関東御入国之砌本多佐渡守承

^ニ而相応之御奉公も可被 仰付旨被

仰渡候処間も無之縫殿助病死仕候

某

内記

父縫殿助病死後

権現様

台徳院様両御代之間数年御奉公相願罷

在候内浅野但馬守松平陸奥守奥

平美作守三人^ノ扶助を請○寛永

四^ノ卯年六月三日病死

某

庄右衛門

大猷院様

厳有院様両御代之間父願来候通御奉公

相願奥平美作守^ノ扶助を請○寛

文二^ノ寅年五月四日病死

佳當

平右衛門

重修譜佳當^ノ前三代除ク

(佳當の部分は貼紙)

○佳當

平右衛門

延宝六^ノ午年御留守居番與力

召被加現米八拾石 ^并御給金被下○

正徳元^ノ卯年八月廿三日病死七十歳

高田亮朝院葬

佳豊

庄左衛門

始造酒進

久次郎

妻小宮山又七郎某女

父^ニ統^而御留守居番與力

寛永元^ノ申年家督父勤の^ノ？

元文二年九月十三日 (同四年八月十五日鑄錢座御用寛保三年八月

○其後支配勘定御勘定等○玉曆十

巳年正月六日病死

六日関
東筋
檢地
延享三
年正月
十二日同上
同四年九
月七日同上

○

(ここに下部○の続きがあるが左下に記載する)

以下略

(上部○の記述)

○寛延二年
二月八日越後出羽
上野檢地御用同

三年十二月十六日
御勘定同月廿八日

初見宝暦元年四月廿七日
越後国檢地同十二月

朔日拝謁宝暦三年
十一月八日東海道五畿内

城作米見分同四年
二月十五日拝謁同十年

二月十一日老免銀十枚
同十一年正月六日死亡

七十五歳亮朝院葬
法名日栄